高校生による（よくあるような）ラブコメ小説

パイン飴愛好家

【注意事項】

このＰＤＦファイルは「ハーメルン」で掲載中の作品を自動的にＰＤＦ化したものです。

小説の作者、「ハーメルン」の運営者に無断でＰＤＦファイル及び作品を引用の範囲を超える形で転載・改変・再配布・販売することを禁じます。

【あらすじ】

これは、インキャの少年である主人公の二次創作でよく見るラブコメである

【注意】

作者の都合上投稿が途絶えたり登場人物のキャラが崩壊する可能性があるので「大丈夫だ、問題ない」という人のみご鑑賞ください

目　次

恋愛はいつもファミレスから始まる　1
そして物語は動きだす　――――　6
高校生によくあるお出かけ回　――　13

恋愛はいつもファミレスから始まる

俺、滝川秋斗はインキャだ。中学校生活で仲の良かった友達は一人を除いて全員別の高校に行ってしまった。そしてその友人も陽キャ故に

他の仲の良い友人と絡んでいる、そして当然のようにこの高校では彼を除いて友達はいない。

だがこの俺にも癒しはある。そう、隣の席の「黒崎雪乃」だ。彼女はこのクラスで一位どころか学校内でもトップクラスの美少女だ。ちゃんとケアされた黒髪、雪のように白い、名前に恥じないような肌の白さ、細身だが少しばかり身長が高いのでモデルのように見えるスタイルが彼女を美少女たらしめるのだろうか。先日この学校のサッカー部のキャプテン（イケメン）から告白されたという噂も聞いた。

それでも自分には関係のない事だ。仮に恋してもそれは叶わない。

叶わない事を言っていても時間の無駄だ。それなら俺は自分の好きな

ゲームや、学生の本業である勉学に励もうと思う。

キーンコーンカーンコーン……

と下校のチャイムが鳴ったようだ。今日は友人（さっき話した）と久しぶりにファミレスでゲームや勉強をする予定なのだ。という事なので一回家に帰ってからＳｗｉ○ｃｈを取りに帰って、それからファミレスに行こうと思う。それでは。

……の前に母さんにゲームをしに行く主旨を伝えてくる事にしよう。

「母さん、今日ファミレスで拓哉とゲームするから夕飯いらない」

「あらあら、たっくんと？遊ぶの久しぶりじゃない！分かったわ。ちゃんと楽しんでくるのよ！ただし、あまり遅くはなんないでね！」

「分かってるよ、それじゃ行ってきまーす」

というと俺はＳ○○ｔｃｈとモ○ハンを持っていつものファミレスに行くのだった。

さっきの出来事から数分後、駅前のファミレスで友人を待ちつつ先にゲームを始めていた。もちろんモ○ハンだ。ちなみに俺はガンサーである。盾があって安定力があるのとフルバからの竜杭が気持ちいからだ。

「すまん、遅くなっちった！」

とゲームをしている間に友人が来たようだ。彼の名前は「金城　奏」だ。イケメンで話が面白く、心が優しいという俺とは正反対の陽キャだ。ちなみに彼の持ち武器は太刀か大剣で彼曰く

「兜割決まった時は気持ちいいしし大剣は真溜めだろ！」

らしい。やはり陽キャは使う武器まで陽キャなのか…と思いながら友人とモン〇ンを始める

「今日何狩りに行く? 個人的にはイベクエのア〇ラ狩りに行きたいんだけど」

「あれかぁー、おけ、行きますか！」

狩猟中

「あ、ヤッベ気絶した」「お前マジかよちょっと待て乙るなよ、絶対に乙るなよ!?」「ヤメロー、シニタクナーイ、シニタクナーイ!アアアアア仕事しろ犬ー!!」「ケツピンチクしてたらダウンしたゾ」「さすが俺の親友、俺には出来ない事を平然とやってのける！そこにシビれる憧れるゥ！」

「言うな照れる」「ツシャあとは水月で……翔蟲いねー!!」

「あっ（察し）ふーん…」「アアアアアアアアアアアアアアアアア!!」

狩猟終了

ふう、やはり友人とのゲームは最高だな。この時だけは子供のように楽しめる。（しっかりと周りに配慮はしています）さて、そろそろ勉強に移るとしよう。来週にちょっとした小テストがあるからな。

「そろそろ勉強しようぜ」

「そうだな！今日の授業分かんなかったとこあるから教えてくんね？」

「あーアレな、いいぜ任せとけ」

「流石秋斗さんッス！今日もオナシャス！」

「なんだそのキャラ」（笑）

「ここなんだけどよー」

「ここはこれをこうして……」

「おーすげえ！解けた！」

「だろ？」

と勉強していると隣の席から話し声が聞こえてくる。声の高さからして女子高生あたりだろうか？それも二人組

「で、どうだったのよ？例のあの子に話しかける事は？」

「……今日も話しかけれなかったよ……」

「ありゃありゃ、またかー」

と話していたが、自分には関係の無い事と割り切ってなんか頼もうとした時に衝撃的な事が自分の耳に入ってきた。

「で、雪乃はなんであの子に話しかけたいわけ？」

なんと隣に座っているのは雪乃さんだったようだ。隣に絶世の美少女が座っているのだからとてもドキドキしてきた。そしてさらに耳に入ってきた言葉で、飲んでいた水を勢いよく友人にぶっかけてしまった。

「……だって秋斗君可愛いし、小さい頃に助けてもらったから……」

……え？

そして物語は動きだす

「……だって秋斗君可愛いし、小さい頃に助けてもらったから……」

……え？

いやいやなんでだ!?記憶力は自分でも良い方だと思ってはいるが、あんな美少女に会っていたら普通は覚えている筈だろ!?あとなんで可愛いって言われてんだ!?

……と頭の中で混乱していた。するとスマホに一個の通知が入ってきた

奏

お前雪乃さんとどういう関係だよ!?あと水吹きかけてくんな！

これは聞かれるとまずいという事を察しての最善策か。これはありがたいと思い、奏のアカウントにメッセージを送る事にしよう

知らねえよこっちが聞きてえわ!?

あとそれに関してはごめん！

奏

じゃあなんでこんな爆弾みてえな情報が後ろから聞こえてくんだよ!?

……ちょっと待て。もしかしたら

分かったかもしれん

奏

何!?

そう、これは大体幼稚園時代のことだ。そん時の俺も友達がいなく、一人でブランコを漕いでいた時に彼女を見たんだ。彼女はそん時から美しくて、だけど孤独だった。そん時の俺は何を思ったのか彼女を遊びに誘ったりしていた。……幼稚園時代の方がコミュ力高いってマジ?

……という事かもしれん

奏

へーそんな事があったんか

お前幼稚園の時の方がコミュ力あるやんけ、なんで退化した?

どうやら俺と奏も同じことを思ったらしい。マジで自分に何があった?と思いつつまた勉強を進めていくのだった。

「今日は楽しかったな!またやろーぜ!」

「そうだな、また空いてる日とかな」

「んじゃまたなー!」

と友人に別れを告げた俺は、コンビニでシャー芯や赤ペンを買い足してから家に帰っ

たのだった。
「ただいまー」
「おかえりー、今日は楽しかった？」
「ああ、久しぶりにあいつとゲームとかできて楽しかったよ。」
「そう、それは良かったわ。」
「うん、それじゃ風呂入ってくるよ。」
……ふう、サッパリしたサッパリした。やっぱり風呂は最高だな！
それにしてもファミレスでの言葉が気になりすぎる。一緒に遊んだだけでああなるとは思わなかった。まさかあの人、
あんま友達いなかった……？いやいやそんなわけ……無いよね？
ヨシ！考えるのやめ！もう寝よ……
と思いつつベットへ身を投げて、思考をシャットダウンさせるのだった

ーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーー
5月10日
今日も喋り掛けれなかったので、試しに親友の美穂に相談してみた。

美穂はとても親身に話を聞いてくれてとても助かった。やっぱりこういう事は日記や人に話すだけでいくらか心の荷が降りるというものだと痛感した1日だった。明日こそは秋斗君に話しかけて見せる………！

ーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーー

翌朝………

ふぅーぁぁぁぁ、よく寝た。っと時間は……5時半か、少し早起きしてしまったなぁ。学校まで時間あるしちょっと走ってこようかな。

たまには運動しないといけないし。んじゃ早速着替えて走ってきますか！

３０分後………

いやー走るの気持ち良かったな。こういう朝があっても悪くないな。

それにしても汗臭いな……シャワー浴びてこよ

そのあとはいつも通り朝飯を食べ、身だしなみを整えて家を出た。

ちなみに父と母は仕事で既に家を出ているからいない。

学校に着き、いつも通りに授業を受けて一人で昼飯を食べようとした時、俺に時間が起きた。なんと、隣の席の黒崎さんに昼飯を誘われてたのだ！

だが考えてみてほしい。黒崎さんはすごい美人だ、美少女だ。そんな人とインキャが二人で飯を食べるとこうなってしまう

「ねぇあいつ処す？処す？」「あいつに限っては死んでも文句は言えねぇ」「殺さなきゃ（使命感）」「殺って見せろよマ〇ティー、なんとでもなる筈だ！ガ〇ダムだと？」「殺りますねぇ！」

などといつ殺されるかわかんない恐怖と戦いながら飯を食べなきゃいけないのだ。そんな事できるほど肝は大きくない、だが断ったら黒崎さんに失礼だし殺される。どっちにしても死ぬとか死にゲーかな？

とか考えつつ（この間０．２秒）導き出した結論は

「は、はい。よろしくお願いします（？）」

黒崎さんと昼飯を食べる事だ。流石に誘ってきたのを断るのも気が引けるからね。

そして高校内の中庭で昼飯を食べる事になった。あそこは日当たりもいいし中心に大きな木があるからそこで食べる昼飯は三割増しで美味しい（と思う）。そして昼飯を黙々と食べていて思った

（話題がねぇぇぇぇぇぇぇぇぇ!!）

なんか、なんか話題はないのか!?そ、そうだ！なんで飯に誘ってくれたか聞こう！それなら結構話題が広がるぞ!!

「あ、あの、なんで昼飯に誘ってくれたんでしゅか？」

あああああああ噛んだアアアアアア!!!!!!と内心悶絶していると、耳に囁くような声で理由

が聞こえてきた。
「……貴方と、お友達になりたかった……から」
え、マジ？こんな美少女が？俺と？
…………ほあああああああああああああ!!（魂の咆哮）
嬉しすぎる！今まで女友達どころか普通の友達が少なかったこの俺が!?、美少女の友達ができる!?、嬉しすぎる、嬉しすぎるぞ！これもう今日嬉しすぎて寝れんわ（確信）
その後はたわいもない話を少ししてから教室に戻り、授業を受け、帰宅した。奏は今日他の友達と遊ぶ約束があるらしく、一足先に帰っていった。帰宅後は夕飯までゲームをしたり母の手伝いをしながら過ごし、風呂に入って自室でゆっくりしていた。
それにしてもまさかあんな美少女とお近づきになれるとは……
そう思うとなんだかとっても叫びたくなってきたぞ！
「っっっっしゃあああああ!!」
「うるさいわよ秋斗!!」
と怒られてしまったので軽く勉強してから寝よう。おやすみなさい
ーーーーーーーーーーーーーーーーーーーー
5月14日

やったっ！やったっ！話しかけれた上にお昼ご飯一緒に食べれたっ！
やっぱり嬉しいなあ、初恋の人に話しかけてれるのは。
ここからさらに仲良くなって、ゆくゆくは……えへへ♪

高校生によくあるお出かけ回

雪乃さんと昼食を食べ始めてから大体一週間ぐらいが経った。最近は自分の趣味や勉強の話、昨日あったことの話など他愛の無い会話をしながらお弁当を食べる日々が続いていた。そんなある日、雪乃さんからとある提案をされた。

「あっ、あのさ……今週末って、空いてるかな……？」

……？……？……ファッ!?これってまさか、俗に言う「お出かけのお誘い」というものでは？まさか雪乃さんの方から来るとは思わなかったな。今週末であれば普通に空いてるし、どこ行くかとかでも聞いとこ。

「今週末ですか？それなら空いているので大丈夫ですよ。ちなみに何処に行くかとかは決まっているんですか？」

「やったぁ……！えへへ、行くところはちょっとは決まってるんだ……！一緒にアニ○イト行こうと思ってて……。秋斗君、このアニメが好きって言ってたでしょ？」

そういえばそんなこと言ってたなあ。友達内でアニメの話題で盛り上がれる人があまりいなかった（そもそも友達の絶対数が少ない）から、雪乃さんが「そのアニメ知ってるよ……！」とか言った時にはほんとビックリしたなあ。

「アニメ○トかぁ…いいですね、確か新しいグッズが発売したってネットの情報で見たんで、グッズ買えたら良いですね。」
しかもそのグッズ今期限定なんだよなぁ。マジで買えるといいなぁ………。
その後また他愛もない話をしてから授業を受け、お互い家に帰って行った。それにしても、俺みたいな陰キャが雪乃さんみたいな美少女に話しかけられて、仲良くなるなんてまるでラブコメみたいだなぁ。まぁ付き合えるとは思ってないな。うん。付き合うにしても金城みたいなイケメンで人に分け隔てなく優しくする奴と付き合うんだろうなぁ。まあ雪乃さんと一緒に飯食えてるだけ役得とでも思っとくか。さて、今日はアプデで新しいキャラ追加されるから早くかーえろ。
ーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーー
○月△日
今日は秋斗君をお出かけに誘えた。それにしても秋斗君があのアニメ好きだとは思わなかったなぁ……。あのアニメの話できる人なかなか居ないから、話し始めた時ビックリしたぁ……。今週末、楽しみだなぁ………！
ーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーー
パタン
……ふう、今日の日記はこんぐらいにしとこうかな…。まさか好きなアニメが一緒だ

なんてすごい偶然だよね。しかもアレの細かい設定とかまで知ってるとは、流石だなあ……。それにしてもお出かけ、楽しみだなあ……！

「～～～～～～っ！」パタパタパタ

今日はもう寝よ。明日も楽しみだなあ……！